

“ともに立ち上がろう！”

JBU 救援ニュース <第 10 号>

基幹労連
東日本大震災
中央災害対策本部
2011年4月28日(木)
www.kikan-roren.or.jp

～被災された多くの皆さまに心よりお見舞い申し上げます～

◆現在の被災状況

現在掌握できている組合員の人的被害 死亡 11 名、安否未確認 2 名(4月28日現在)

◆神津委員長が東北 3 県を激励訪問

4月21～23日、神津委員長、沖中次長、近藤次長が東北3県を激励訪問しました。

訪問先は、福島県本部(IHI 労連相馬支部、小名浜製錬所労組)、宮城県本部(JFE 条鋼 労組仙台支部)、岩手県本部(新日鐵釜石労組)で、それぞれ被災状況の詳細報告を受けるとともに、現地で抱えている厳しい諸問題の解決に向けて要請を受けました。これを受け、4月26日国土交通省へ、27日環境省へ、本日28日経済産業省へ緊急要請を実施しています。(詳細はニュースレター19号参照)

各県本部へ神津委員長の愛読書や推薦本を寄贈し、さらに連合ボランティア派遣で基幹労連からの参加メンバーが活動している岩手県東和地区のベースキャンプを訪問し、奮闘しているみなさんを激励しました。



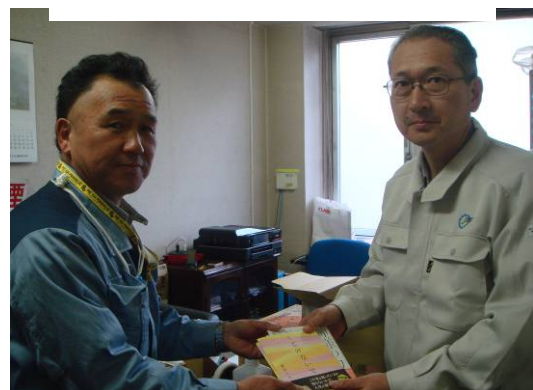
福島県本部(小名浜地区)



福島県本部(相馬地区)



岩手県本部



宮城県本部

<現地からの主な政策要望>

- 港湾設備の早期復旧
- 風評被害対策
- 瓦礫の早期対応
- 電力供給への対応

◆連合ボランティア第4陣が出発



上:基幹労連派遣団と見送り
右:“頑張ります!”とバス
に乗り込むメンバーたち



4月24日(日)から5月2日(月)まで、連合ボランティア派遣団第4陣として基幹労連から20名が参加し、担当の釜石地区において活動しています。ご協力、誠にありがとうございます。



連合兵庫として福島へ行く
基幹労連マン

□ボランティア体験談(その3)～釜石地区第2陣より～



ボランティアの初日、東和ベースキャンプからバスで移動し、釜石市街地に近づくと車窓の景色は一変しました。家も車も街も、全てが津波にのみ込まれた被災状況を目にしたとき、わたしたち全員の表情は引き締まると同時に「力になりたい」との思いが強くなった瞬間でした。



現地では、被災者のお宅にて、家財等の搬出や泥だし、庭に堆積したあらゆる流出物の片付けを行いました。基幹労連の仲間との作業は、ものづくりの現場で働く強い結束と熱い思いを、ひしひしと感じましたし、作業を終えての帰り際、家主の方から頂いた「ありがとう」の言葉は、メンバー全員の何よりの励みになりました。今回のボランティア経験を通じて、「支援の輪を拡げ、そして続けていかねば」との強い思いを胸に刻まれました。“ALL for ONE”基幹労連 25万人の力を合わせ、ともに立ち上がりましょう！

新日鉄労連 玉井利生 中央執行委員

◆カンパ 引き続きのご協力をお願いします！

本日 111,138,358 円(226 組織)を集約させていただきました。誠にありがとうございます。第2次集約は締切りましたが以降も受付しております。ご協力をお願いします。

◆JBUパワーバンク、独自出動を検討しています！

5月中旬から、連合ボランティア派遣とは別にJBUパワーバンクとして独自で活動することを検討しています。本日15時からの中央執行委員会で審議後、基発を発信しますので、宜しくお願い致します。

以上

<基幹労連本部連絡先> 電話 03-3555-0401

土日・祝日・夜間(携帯電話)090-9412-5759

★携帯電話番号が変わりましたのでご注意ください